

かえる便り 30年度16号

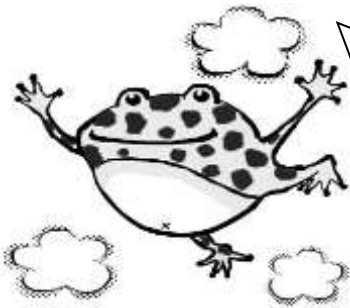
平成30年8月21日

残暑の候、皆様にはご健勝のこととお喜び申し上げます。

チームを強くするには、個々の心・技・体を高めることが必要です。強豪校と言われるチームには、“目的意識と技術の高い”選手が毎年多数入部してきます。上級生であっても手を抜けばすぐにその座を取られることを知っているからこそ、いくら練習が厳しくても妥協しない者が多いのです。技術レベルが低くても心構えを変え、意欲的に練習に取り組めば組織の力が向上すると思いませんか？

どのような分野でも成功している人に共通することは、最後までやり抜く体力と諦めない氣持の持ち主です。そのような人は取り組み姿勢に“斑”がありません。我がチームの選手は、日々どのような取り組みをしていると思われませんか？

どのような準備をしてきたか、本番（試合、試験）はどの程度力を発揮できたか、できなかった原因を分析し対策を考えているか？ 準備・実行・片付け（整理）が不十分な部員が多くいます。練習の取り組み、用具の管理等含めて悲しい現実が多々あります。



今春の大分遠征の際、部員達がお世話になった地元の老婦人から、再度差し入れを頂きました。また、翌日には試合会場に来られ温かいご声援を受けました。爽やかな高校生に好印象を持たれたようです。（感謝）この交流を大切にするためにも、ピッチ内で仲間を助けられる技術・判断・体力を高いレベルで発揮できる習慣を身に付けさせたいと思います。しかし、思い遣りや気付きのない人に教えることは難しいですね…。

“ころ” はだれにも見えないけれど “ころづかい” は見える

“思い” は見えないけれど “思いやり” はだれにでも見える

部員達を観察していると、いろいろなころや思いが見えてきます。私が見ることの出来ない家庭での準備が見える部員もいます。数か月後、彼の身体が明らかに変化しているのです。何故かは、分かりますよね!? また、何も変化が…？

様々な角度から部員を観察しています。何故なら、彼らのころ思いは行動になって表れるからです。習慣はその“心や思い”が積み重なった結果です。準備・片付けの重要性を知っていても努力は“人様々”です。良い習慣にしたいから指導するのですが、力不足を感じる夏休みでした。